

8-4-36 システム改善専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) システム改善専門委員会の開催

会員企業の多くが、業務品質の確保や向上を目的に認証取得し運用している品質マネジメントシステム（以下、QMS と略す）について、日常的な課題となっている「実務者の負担感軽減」や「QMS の実効性向上」などにつながる改善事例、新たに制定されたマネジメントシステム規格に関する有用な情報等を収集することを目的に、令和5年度は12回の専門委員会（集合6回、オンライン6回）を開催した。

(2) QMS の効果的運用に資する研究活動

前年のアンケート調査の結果や、セミナー聴講者の意見などから、QMS 運用における会員の要望を整理し、委員所属会社の取り組みを中心にQMS の効果的運用の一助となる事例を収集するとともに、会員企業へのヒアリングからQMS の実効性向上に資すると思われる好事例を発掘した。

また、ISO9001 の規格要求事項で理解が進みにくい「リスク及び機会」に関して、委員会内で議論を重ねて理解を深めるとともに、勉強会により他業種におけるQMS 改善のノウハウを収集した。

上記の活動成果をもとに、会員へ提供するQMS の効果的運用に有用な事例を「マネジメントの基本の再認識」、「DX 技術を活用した実務者のアシスト」の2つの切り口にとりまとめた。

(3) マネジメントセミナーへの参画

マネジメントシステム委員会主催のセミナーに、傘下の専門委員会として参加し、活動を通じて得られた知見を「マネジメントシステムの効果的運用に向けて～マネジメントシステムにおける“温故知新”の提案～」と題して講演した。

なお、セミナーでは会員企業へ浸透しつつあるアセットマネジメントシステム（以下、AMS と略す）についても、認証取得組織数の推移や業務インセンティブの動向を紹介した。

また、聴講者から寄せられた多数の意見は、要望や課題等に整理して、次年度以降の活動方針

に反映した。

(4) セミナー発表事例集の公開

過去8箇年のマネジメントセミナーで発表した約120件の効果的運用に資する事例について、解説文を追加しキーワード検索が可能なデータ形式の事例集を作成し、令和5年12月4日に建設コンサルタンツ協会本部ホームページで公開した。

(5) QMS 運用に関するヒアリング調査の実施

会員企業4社に対して、対面で実効性向上のための取り組みや、運用上の工夫などを収集した。実効性向上のためにDX 技術を活用した事例やその具体的効果など、有用な情報収集の場とすることができた。

(6) AMS に関する情報収集

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）で公表される適合組織データを分析し、ISO 55001 の認証組織数の年次推移、認証登録区分や分野の傾向を把握した。

(7) その他

公益社団法人土木学会からの委嘱を受け、令和6年3月6日開催の第59回ISO 対応特別委員会へ委員を派遣した。

2. 次年度の活動について

(1) セミナー聴講者の意見や、ISO 認証に関する企業アンケートの結果をもとに、QMS 運用における「実務者の負担感軽減」の視点で、ヒアリングなどの機会を活用しながら運用上の好事例を収集し、マネジメントセミナーで発表する。

(2) QMS 以外のマネジメントシステムについて、アンケート調査を通じて会員企業の要望等を把握し、ニーズに応える有用な情報を提供する。

(3) 専門委員会の活動を通じて得られた知見を、積極的に外部に発信する。

(4) 勉強会により、マネジメントシステムに関する最新の研究成果や、より深化した実践可能な情報を専門家から収集する。

(5) 関連する外部団体との交流を通じて、積極的な情報収集や情報交換を図る。

（システム改善専門委員会委員長 赤坂 保彦）